第5学年２組　国語科　単元学習プラン

児童数　31名　授業者　池田　啓記

1 単元名　　一つ一つの言葉に着目して登場人物の心情の変化を読み取ろう

2 単元の目標

（1） 文章中の言葉や叙述を根拠に登場人物の心情の変化を読み取り、言葉の意味や役割を理解することができる。
【(1)-オ】(知識・技能)

（2） 自分と他者の着目した言葉や叙述の違いから言葉の意味や役割を捉えて、自分の考えを広げることができる。
【(1)-イ,カ】(思考力・判断力・表現力)

（3） 言葉の意味や役割に着目して物語を読んだり、他者と読みを交流したりすることを通して、物語文の楽しさを実感することができる。

3 子どもが働かせる見方・考え方　　○ 登場人物の心情を考える根拠となる言葉や叙述への着目

4 単元構成(単元計画(15 時間) 本時 11/15)

	主な学習活動【□】	子どもの考え(A児を中心に)【○】
集団追求過程	□これまでの物語文の読み方を振り返る。 □言葉の役割に着目し、登場人物の心情の変化を捉えるための学習計画を立てる。（2h）	○前回学習した物語文「いつか、大切なところ」では、会話文だけでなく、情景からも登場人物の心情を捉えられることを学んだ。今回の「大造じいさんとガン」でも、情景描写に注目して物語を読んでみたいな。 ○根拠となる部分に線を引きながら読んで、登場人物の心情を想像しよう。今回は、心情の変化にも注目して心情曲線をかいてみようかな。
個別追求課程	□自分なりの読み方で物語文を読み、登場人物の心情の変化を捉える。 （7h）	○「青くすんだ空を見上げながら、にっこりとしました。」の「青くすんだ空」という情景描写は、残雪をうちとれそうだという大造じいさんの期待が表れていると思うな。それに「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」という情景描写は、大造じいさんの残雪を絶対につかまえてやるという覚悟が表れていると思う。それなのに、「再びじゅうを下ろしてしまいました。」と書いてあるのはなぜなのだろう。 ○初めの内は「たかが鳥」と呼んでいたのに、最後には「がんの英雄」と呼び方が変わっている。残雪の捉え方が変わってきたということかな。 ○他の人はどんな表現に着目して登場人物の心情の変化について考えたのだろう。
集団追求過程	本時の目標　根拠を明確にして、登場人物の心情の変化を捉えることができる。 ■お互いの物語の読み方や登場人物の心情の変化に対する捉えについて聞き合い、根拠となる言葉や叙述について考えを出し合う。 （4h 本時は2/4）	1 お互いの考えを聞き合いながら、登場人物の心情の変化について考える。 ○物語の初めに「いまいましく思っていました。」とあるように、大造じいさんは残雪のことをうちとりたかったのだと思います。しかし、物語の終盤では「大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。」と書いてあり、仲間をかばってケガをしたにも関わらず、頭領としてのいげんを守ろうとする残雪に心を打たれて、大造じいさんは残雪をうちとるのをやめたのだと思います。 ・最後にガンが飛び上がる時に、「『おうい、ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつを、おれはひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。』」と書いてあり、心を打たれたからこそ、残雪のことを正々堂々とうちとりたくなったのだと思います。だからケガをしている残雪を撃たず、治るまで看病したのだと思いました。 ○大造じいさんは、初めに残雪のことを「たかが鳥」と言っていたのに、最後には「ガンの英雄」と呼んでいることからも、大造じいさんの残雪に対する捉えが変わってきていることが分かります。 2 話し合ったことをもとにして、これからの物語の読み方について考える。 ○前回学習した情景描写に注目することで、大造じいさんの心情をよりくわしく考えることができた。さらに心情の変化に注目することで、物語全体のつながりを意識して読むことができた。
個別追求課程	□自分の物語の読み方や今後の課題について振り返る。 （2h）	○前回の学習では、登場人物の心情の変化については注目していなかったけれど、今回の「大造じいさんとガン」では心情の変化に注目することで、大造じいさんの残雪の捉えが変化することを読み取ることができた。物語文を楽しく読むことができた。 ○次の物語文の学習では、引き続き登場人物の心情の変化に注目しつつ、情景描写以外の表現の仕方についても学んでいきたいな。